

# 稲門女性ネットワーク

TWN

Tohmon Women's Network

第18号

http://tw-n-waseda.net



## トップインタビュー

フジ・メディア・ホールディングス&フジテレビジョン  
代表取締役会長 日枝 久さん

聞き手 見城美枝子会長

東京・お台場のシンボリックな建物のフジテレビ本社。窓からレインボーブリッジが眺められる応接室で、TWN創設時に大きなお力をいただいた、フジ・メディア・ホールディングス&フジテレビジョン代表取締役会長の日枝久さん（1961年、教育学部卒）にお話をうかがいました。

◇メディアは、コラボレーションの時代へ

見城 マルチメディアの時代と言われますが、テレビはこれからどうなるのでしょうか。日枝 我が国のテレビ放送開始からおよそ60年、この7月24日にデジタル化になります。ラジオからテレビ、そ

して有料テレビができ、インターネットの時代になってきて、ちょうど混ざり合い、これからどう変わっていくかがいまの状況だと思えます。第2次大戦を支配したのはラジオでした。東欧などが統一されたときはテレビです。最近のアフリカの動きはフェイスブックです。メディアが社会に与える影響は大きいですね。私は、テレビとインターネットは敵対的なメディアでないと思っています。新聞、テレビ、インターネットは、コラボレーションして時代の中に息づいていくと思えます。ただインターネットは素晴らしい一方で、情報が漏れたり、人を中傷したり、子どもの教育の問題とか、危険があります。新たなメディアの出現に、我々がどう対処していくかを突きつけられている。原子力もインターネットも、バンドラの箱を開けてしまったら、何とかしていかなければいけない。便利なものをどう利用していくかが、21世紀の課



題でしょうね。

◇メディアの原点は、「人と人を結びつける」こと  
見城 デジタル化のリードをされてきた会長は、時代を先取りされたわけですね？  
日枝 民放連会長に就任前でしたが、科学技術の進歩に棹をさして、進歩はありえない、過去の歴史を見ても、放送通信が革新されることで新しいメディアが出てきます。たとえばケネディ大統領暗殺のときに初めて衛星実況が行われ、翌年の東京オリンピックは全世界に衛星放送されました。それ以降、ニュースは世界共有になりました。

パソコン、ITがどんどん進んでくるときに、テレビが放送通信技術から遅れて生き残れるのか。多少投資をして、映像も音もきれいになる、双方向になる、DVDで見る事ができる、そういう多目的に使えるテレビの端末はデジタルにしておかなければと

思いました。間違っていないか  
つたと思います。

メディアは、基本的には信頼度があるかないかが一番のポイントだと思えます。テレビの強みは信頼を受け続けるメディアであることですね。テレビ通販は、フジテレビが世界で初めてやったのですが、テレビへの信頼があつたから売れたのだと思えます。

フジ・メディア・ホールディングスとしたのは、メディアの原点は人と人を結びつけるものだとして、旧来のメディアである新聞、雑誌、ラジオ、テレビをもう1つ広げようと考えたからです。現在は新聞、テレビ、ラジオのほか、音楽、映像、出版、イベント会社、通販やビル管理もしています。人と人を結びつけるメディアに広がっていくという夢があるんです。見城 ネット上だけの関係に陥りやすい時代ですので、人と人が結びついて出会うことは大事なことです。





◇多様な職種で働いています  
見城 安藤優子さんとか、フジテレビでは女性キャスターが活躍されていますが。  
日枝 かつては25歳定年制がありました。男女機会均等法ができる前に、「これはおかしいよ」と撤廃しました。いまは、どんな仕事でも男女同じです。女子アナも、タレントのような人、ニュースを読める人、ナレーター向きの人もいます。報道や演出、事業をする女性も出てきて、職種は広がっています。当社の男女比は75対25。入社後の比率も変わらないですね。  
見城 会長がお考えになる「仕事をする女性像」は？  
日枝 男性と同じように仕事をしたい。社会の環境、家族の協力などの環境が整っているか、それを踏まえて、自分がどう生活設計をするかが必要だろうと思います。子どもに手のかかる時期をうまく乗り越えようと、結構伸び伸びと仕事をしている人たち

がいますので、そのシステムをつくる必要があるのかもしれないですね。  
見城 女性の職場がテーマになるドラマや番組を制作していただきたいと思います。その仕事、その生き方にあこがれ、触発されると、仕事を持つて生きようと考える女性が増えると思います。

◇早稲田の女性よ、輝いて！

見城 TWNの設立には、多大なる資金のご貢献をいただき、ありがとうございます。  
日枝 当時、奨学金をサポートする女性のネットワークを作りたいと言われた記憶があります。大変いいことだとフアンドを出させていただきました。早稲田は日本一、留学生の多い大学なのですが、そのことを学生もOBも知らないと思いますよ。留学生も包括するネットワークを女性の方々が作るのも大きな仕事かもしれませんね。それと、最近はずえてきました。早稲田の先生方ももっと社会に出て発言し、発信しないとね。  
見城 TWNは留学生に奨学金を贈呈していますが、少しでもお役に立てたらうれしいです。早稲田のOGであるTWN会員、現役の女子学生に



は何を望まれますか。

日枝 入社試験で会う女子学生からは、早稲田精神という堅苦しさをまったく感じません。神様が男と女を作ったのですから、女性らしく才能を発揮してほしい。率先して世界にも出て行く人間になることが、後輩に憧れをもたらすのではないかと思います。  
見城 とくに女性は命をはぐくむ性として、命、地球の子どもたちが大事という原点をより強く持っていると思います。そういう部分を仕事に反映できたらいいですね。  
日枝 女性はずっと伸び伸びと才能を発揮したほうがいい。そうすると、どんどん職場が増えていくと思います。諸外国では、メディアでも女性のCEO（最高経営責任者）が多いですよ。才能があり、女性らしさがある。一言で言うとかっこいい。早稲田の女性もぜひ光り輝いてください。  
見城 エールをいただき、ありがとうございます。

TWN奨学金  
《奨学生は今》

2010年度に奨学金を贈呈したおふたりの近況報告です。

ファイナンス研究科

専門職学位課程2年

藤原 綾乃



ファイナンス研究科で学び、この春で2年目を迎えます。

このファイナンス研究科は、金融、デリバティブ、法律、会計、不動産投資など、金融実務に携わるにあたって必要な知識を幅広く学ぶことができる場です。特に、私は会社法や金融商品取引法等の法律にも関心があり、これらを学ぶことができ非常に有意義な機会を得ていると感じています。

また、クラスメートは、学部卒の方や留学生の方、金融機関等での仕事と両立させながら学ぶ志の高い人たちばかりで、切磋琢磨しながら充実

した毎日を送っております。日本経済は、リーマンショックから立ち直りかけた矢先に起こった大震災により厳しい状況に置かれています。しかし、ここで学んだ幅広い知識を活かし、次の日本経済を牽引するのは私たちの世代だという気概を持って、素晴らしい仲間とともに、残りの学生生活も引き続きしっかりと努力してまいりたいと思っております。

最後に、皆様方のお蔭でこのように充実した学生生活を送ることができたことを心より感謝致します。



文学部3年 徐 銀珠(ソ ウンジュ)

先日は誠にありがとうございました。皆様からいただいた奨学金は、私の学費や新しく英語の勉強を始めるために使わせていただきました。もう一度感謝の気持ちを申し上げます。

東北大震災で早稲田大学の開校日が延長され、5月6日から新しく授業を受けています。

春休みの間、自分が研究する分野である映画について書かれた専門書や情報誌などを読み、大学では新しく世界各国の映画史について研究を始めました。これからの研究もすこく楽しみにしています。

また、贈呈式での皆様の優しさや後輩の学生たちを助けようとする姿勢を見習い、生活が困難な東南アジアやアフリカなどの子どもたちを援助する活動を始めました。今はたった1人の子どもを援助していますが、今後はもっとたくさん子どもたちを助けたいと思っています。

これは全て2010年に皆様が私にくださった奨学金なしにはできなかったことだと思います。TWNの皆様が私にくださった笑顔は一生忘れられないと思います。

皆様のご期待に応じられるように今後も頑張っていきたいと思えます。誠にありがとうございました。



### これからのTWNに期待する!



アサヒビール(株) 首都圏業務用統括本部総務部主任

山添 綾

入社6年目を迎え、現在は首都圏の総務部で派遣社員の採用・管理、福利厚生事務、研修を担当しております。今後ますます個人と組織の成長が求められる中、組織を支える管理部門のプロとなるべく勉強の日々を過ごしております。

TWNとのご縁は、昨年の在学生向けの就職活動イベントにお声がけ頂いてからとなります。大好きな母校のためにかかしたいと漠然と思いつつも、稲門会は大先輩の所属する自分とは縁遠いものと考えていました。そのような中、イベントで在学生に接することで、自分にも出来ることがあると実感させて頂き、再び母校と繋がる機会を与えて頂きました。

また、先日の新年会では、たくさんの方と一緒に過ごさせて頂き、改めて母校の伝統や絆・温かさを感じる事が出来ました。今後も母校の発展をお手伝いさせて頂き、稲門の誇りと喜びを感じる機会としてTWNと末永く繋がっていくことを期待しております。

最後になりましたが、この度の東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。(2006年法学部卒)

\*\*\*\*\*



山本加津子

主婦の友社の編集記者として定年を迎え、その後、J-Win(ジャパン・ウイメンズ・イノベティブ・ネットワーク)というNPOで広報を担当しています。

J-Winは会員企業のダイバーシティ・マネジメントを支援する団体ですが、具体的には女性幹部、女性役員を増やすことを当面の課題とし

て活動しています。日本の大企業約90社が会員になっていくように、トップ企業は埋もれた人材、つまり女性をもっと活用しなくては、このグローバル時代、変化の激しい時代に生き残れないと気付き、企業改革に取り組み始めています。

若い世代のTWNのみならず、女性役員なんて珍しくもない、という時代がもうそこまで来ています。企業は変わろうと努力しています。どうぞ大志を抱いて、チャレンジしてください。私は、早稲田を出たおかげで得ることができたものを、ささやかながら次の世代へ少しでも渡すことができればと思っています。同窓女性たちの多世代ネットワークであるTWNに期待しています。(1967年教育学部国語国文科卒)

### TWN幹事長として

#### 1期2年を終えて



石井由紀

幹事の皆さんと一緒に試行

錯誤しながらこの2年を過ごしてきました。

最大の悩みは会員の実質的減少です。登録はあるものの、過去数年間会費のお振り込みのない会員が多数いらつしゃるという事実でした。一方TWNの知名度は低く新会員がなかなか増えないという現実があります。

それでもこの1年で約20名の新会員の方々をお迎えすることができました。現会員からの紹介が最も多く、「早稲田学報」や稲門祭で配布したチラシでTWNの存在を知って入会を決められた方もいらつしゃり、広報活動の重要性を改めて痛感しました。

過去数年、現役女子学生に対しキャリア支援のイベントを実施してきました。協力してくださったOG達に機会にTWNのメンバーになって下さったことも今後の活性化に大いに貢献してくれると期待しています。

TWNを「女性稲門会」ではなく「女性ネットワーク」と命名された設立メンバーの皆さんの想いを大切にして一人でも多くネットワークを広げて行けたらと念じています。(1968年第1文学部英文学科卒)

# TWN 活動報告 2010年7月～2011年6月



2010. 7. 17 総会 校歌を歌う



奨学金贈呈



樋口恵子さんの講演

## TWN 稲門女性ネットワーク



2010. 10. 17 稲門祭に参加



2010. 12 キャリア支援イベントのパネリストの方たちと交流会



2011. 1. 22 新年会「レストランテ アルポルト」にて



2011. 6. 5 歌舞伎鑑賞教室 留学生と

## お知らせ

○お友達ご紹介のお願い

TWNの主な活動は、①奨学金贈呈 ②女子学生のキャリア支援活動 ③留学生支援 ④早稲田出身女性の交流活動 です。早稲田の同級生のお友達もぜひお誘いください。 ※男性の方でも賛助会員としてご入会いただけます。

○ご入会方法

①氏名 ②ふりがな ③学部・学科 ④卒業年(西暦) ⑤郵便番号 ⑥住所 ⑦TEL ⑧職業 をメール (info@tw-n-waseda.net) ・郵便でご連絡ください。

○詳しくは、ホームページ <http://tw-n-waseda.net/> をご覧ください。

発行年月日 平成二十三年七月二十三日  
発行者 見城美枝子  
編集者 清原れい子 飯野隆子  
題字 花村 林香(彰子)  
発行所 稲門女性ネットワーク(TWN)  
郵便番号 169-8050  
東京都新宿区戸塚町一〇四  
早稲田大学校友会気付

TEL 03-5397-8130  
FAX 03-5397-8132

印刷所 サン印刷  
<http://tw-n-waseda.net>